



たんぽぽだより 12月号

発行日：令和7年12月1日
電話：03-3986-7166

発行元：豊島区立池袋本町小学校
住所：東京都豊島区池袋本町1丁目43番地1号



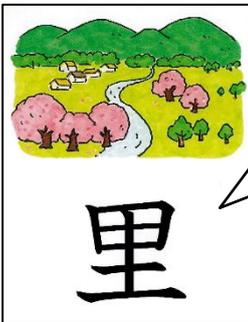
漢字の学習が苦手な子への指導・支援 ～自分にあった学び方を考える～

特別支援教室 たんぽぽ

子供たちの中には、漢字の学習に苦手さや負担を感じる子がいます。「たくさん書いても覚えられない」「書くことが苦手で嫌だ」「覚えてもすぐ忘れてしまう」など、苦手のアラわれ方はそれぞれ違います。たんぽぽ教室の指導では、その子に合った学習の仕方を一緒に探すことを大切にしています。今月のたんぽぽだよりでは、漢字の学習をテーマに、個に応じた学び方の例を紹介します。

(1)「書かずに覚える」方法を取り入れる

漢字の学習では、「繰り返し書いて覚える」が基本と思われがちです。「書き」に苦手さがある子は、書くこと自体に集中が必要になり内容の理解ができていないことや、苦手意識から学習への抵抗感が強くなる場合があります。そんなときは、書く以外の方法でも学べるようにしています。例えば、「漢字イラストカード」を使って漢字の形と意味を関連づけて覚える方法や、「漢字九九」などを唱えて覚える方法があります。個々にあったやり方で、「できた」と思える経験を積むことで、苦手な学習にも少しずつ前向きに取り組むことができるようになっていきます。



漢字の形と意味を結びつける
「漢字イラストカード」

(出典：かもがわ出版「意味からおぼえる漢字イラストカード」)

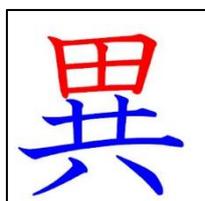
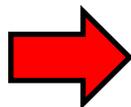
唱えて覚える「漢字九九」

(出典：学研「特別支援の漢字教材初級」)



(2)ICT を活用する

タブレットなどの ICT を学習の中で活用することで、漢字が苦手な子供たちの学び方の選択肢を増やすことができます。例えば、字形の理解に困難さのある子に対しては、ICT を活用し、書き順をアニメーションで表示する、部首を色分けするなどの学び方が効果的です。また、書く動作の負担が大きい子に対しては、指書きやタッチペンで漢字の練習をすることが有効です。筆圧がいらず、疲れにくいいため、負担が少なく、楽しみながら繰り返し学習することができます。



プレゼンテーションソフトを活用して、漢字を部分に分けて色分けすることや書き順をアニメーション表示することができます。

子供たち一人一人に合った学び方を見つけることが、成長への第一歩です。「書くこと」だけでなく、「読むこと」「意味を理解すること」「使うこと」など、様々な角度から漢字を身につける方法を一緒に探していくことが大切です。